

令和3年度



甲府市立新紺屋小学校
校長室：三井 正彦
〒400-0016
甲府市武田 1-3-34
Tel:252-2578
<http://www.shinkonya-e.kofu-ymn.ed.jp/>

本校の学力学習状況調査の結果をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は、5月27日(木)に全国の小中学校で実施されました。この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることを目的としています。

本年度の結果について、県教委及び市教委による指導をもとに分析を行いました。その結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。なお、調査に参加した6年生一人一人には、個別懇談等を利用して、個人票をもとに具体的な課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

〈調査内容〉

- 教科に関する調査 [国語・算数]
- 生活習慣や意識等に関する調査 [児童質問紙調査]

〈分析結果の概要〉



1 本校の状況(全国との比較)

教科に関する調査の平均正答率で見た本校の結果は、「算数」では全国平均と比べて5%を超えて大きく上回り、全国より優位が認められました。「国語」においては、県平均とは同率となっていますが、全国との比較では1.7%下回る結果となりました。「国語」「算数」とともに中には正答率が60%を切る問題や無解答率がやや高くなっている問題も見られましたので、校内でも分析を行い、今後の指導に役立てられるようにしていきます。

2 教科にかかわる課題とその改善に向けての取り組み(特に課題となる点及び改善に向けての取組を抜粋して掲載)

【国語】

① 本校の課題

問題別正答率を見ると、設問の半数で全国を上回っていますが、全国に比べ3ポイント以上低いものや正答率が60%を切る問題もありました。特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「文の中における主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を捉える」「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」等に課題が見られています。

② 改善に向けての取組

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」については、

- ・習得した漢字を読んだり書いたりする機会(朝学習・スタートタイムや家庭学習時など)を可能な限り多く、意図的・計画的・継続的に設定すること、書いた文章を読み返し、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価する活動を取り入れること、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることなどを行っていきます。

○「文の中における主語と述語の関係を捉える」「文の中における修飾と被修飾の関係を捉える」については、

- ・授業の中で、主語や述語の役割を正しく理解させたり、照応を正確に捉えさせたりします。また、文には様々な組み立て方があることに気づかせ、いろいろな文を通して主語と述語の関係に注目させるようにさせていきます。
- ・修飾と被修飾の関係について考えさせる場面を意識的に設定し、「修飾＝詳しくする」ということから、「何を」「どんな」「どこで」「いつ」「どのように」などの観点を示し修飾語に結び付けて考えるように指導していきます。また、日常生活の中できちんと使えるようにするために、「話す・聞く・書く・伝える」というあらゆる場面で修飾語を意識させるように指導します。
- ・修飾語の必要性を感じさせるような指導の場面を工夫していきます。

(映し出された画像について、自分なりに文章を考え、他に伝える活動を行う。等)

○「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」については、

- ・事実と感想、意見などを区別して書くことができるように、教科書に書かれている文章を用いた学習を中心に、その違いを確かめるような場を設定していきます。また、事実を客観的に書く、文末表現に注意して書くなど、事実と考えとを区別して書くように指導していきます。
- ・調べて分かった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くようにさせたり、調べた目的と調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめながら書いたりするように指導します。
- ・「目的や意図に応じて(相手や場面、状況を考慮することなど)自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させるために、国語科の「書くこと」の活動において、自分の考えを他者と協働して「書き直す」学習活動を意図的に仕組んでいけるような工夫をします。

【算数】

① 本校の課題

平均正答率は全国を大きく上回っています。また問題別正答率においても概ね全国を上回っています。しかし、中には正答率が県平均をやや下回る問題もありました。特に、「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」や「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」等に課題が見受けられました。

② 改善に向けての取組

○「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」ことについては、

- ・課題を分かりやすく提示する中で、その課題に対する答えを導くために大切な言葉や数にアンダーラインを引かせて意識させたり、図や数直線を活用し、効果的に題意を捉えさせるような工夫をします。
- ・同じコースを通るような箇所がある場合には、その道のりの数値をどのように考えたり扱ったりすればよいのかを検討する場を設定したり、また、差を求めるために必要な数値について、より深く考える時間を確保していきます。

○「直角三角形の面積を求める式と答えを書く（三角形の面積の求め方について理解している）」ことについては、

- ・直角三角形の面積を求めるために、既習の図形（正方形や長方形の面積）を想起させながら、「直角三角形の底辺と高さはどこになるのか？」を考え、捉えさせるように指導します。また、直角三角形の面積を求める公式は、頭の中では覚えているものの、「その直角三角形の底辺がどこで、高さがどこなのか。」について意識せずに数値を活用してしまう傾向が見られるので、「様々な置き方を変えた直角三角形の面積を求める」や「求める直角三角形に必要な数値を入れて考えさせる」などの問題に数多く取り組ませていくようにします。

○「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」ことについては、

- ・図形の合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明できるように指導します。

○「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」ことについては、

- ・「単位量あたりの大きさ」を学習する際に、図や数直線などを効果的に使えるよう指導するとともに、「もとにする量」「くらべられる量」「割合」といった語句についてもしっかりと理解させるようにしていきます。また「1がもと」という言葉の意味についても機会あるごとに押さえられるようにしていきます。このような問題では「わけを書くこと」が求められているので、言葉の意味や数との対応を落ち着いて正確に捉えられるように指導します。

3 児童質問紙調査の本校の結果について・・・特によかった点及び改善が必要と思われる点を抜粋して掲載いたします。

【児童質問紙調査から見られる本校の傾向】

<特によかった点>

- 「国語への関心等」及び「算数への関心等」については、全国・県の平均を上回り、日常的に興味・関心をもって意欲的に学習している様子が見られています。
- 規範意識に関する設問では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において、県・全国の平均を上回っています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という設問については、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、全国・県を上回る結果となっています。また「将来の夢や目標を持っていますか」では肯定的な回答をした児童は県平均とほぼ同率、全国に比べるとやや上回る結果となりました。
- 「朝食を毎日食べていますか」については「している」「どちらかといえば、している」でほぼ100%となっており、望ましい結果となっています。
- 「学校の授業時間以外に、普段1日どれくらいの時間、読書を読みますか」では、「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が最も多く、全体的に見ても全国・県平均に比べ読書習慣が身に付いている児童の割合が高いと言えます。今後も「家読」への取組や「学校図書館の利用」等の工夫した取組により、読書好きの児童を育みたいと思います。
- 「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」では、「26～100冊」と回答した児童の割合が最も高く、次いで「101～200冊」と回答している児童の割合が高い、という結果でした。全体的に見ても多くの本を置かれている御家庭が多いことがうかがえます。
- 「新聞を読んでいますか」においては、全国・県では「ほとんど、または、全く読まない」と回答している児童が多い中、本校では「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回程度読んでいる」と回答している児童の割合が高く、日常的に社会に対する関心が高い傾向が見られています。

<改善が必要と思われる点>

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」においては、「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童が全国・県に比べ割合が高くなっています。また「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童が最も多くなっています。しかし、全国や県では「3時間以上」及び「2時間以上、3時間より少ない」と回答している割合が若干高いので、家庭学習をする時間をあと少しのばせるとよいと思います。
- 寝る時刻・起きる時刻については、「どちらかといえば」を入れると概ね規則正しい生活習慣の児童が多い様子が見られます。しかし、「しっかりと時刻を守っている」と回答している児童の割合が県や全国と比べると低くなっています。毎日、より規則正しい生活をおくることができるよう、これからも御協力をお願いいたします。

*以上、本年度の「全国学力・学習状況調査」の概要についてお知らせをさせていただきました。今後も、児童の学力向上に向け、また望ましい生活習慣づくりに向け、御家庭や地域の皆様に御協力いただかなければならないこともあります。どうぞよろしくお願いいたします。